

外国語教育の方針と学生の外国語能力向上に関する取組【歯学部・歯学院】

1. 外国語能力向上に関する取組

① 外国語能力の到達目標

- ・学部卒業時の到達目標を留学が可能な英語力を身につけることとする。
- ・大学院修了時の英語力の到達目標を、学位論文公聴会における発表に置き、発表スライドを英語にて作成する。

② 外国語能力を向上させるために実施する取組

【歯学部】

- ・新渡戸カレッジへの入校を推奨する。
- ・本学で提供される留学プログラムへの参加を推奨する。
- ・歯学部専門科目であるフロンティア基礎科目の一環として認めている海外短期留学先の大学を増やし、参加を推奨する。

【歯学院】

- ・博士課程の入学試験において、英語外部試験のスコアにより英語試験を免除できることとしている。
- ・博士課程の授業科目において、英語による授業科目を増やす。
- ・博士課程学生においては、ラーニングサテライトに参加することを推奨する。

③ 外国語能力を把握するための取組

- ・学部学生については、大学で実施する TOEFL-ITP, TOEIC-IP も活用し、受験した翌年度の4月に英語外部試験のスコアシートを提出させる（6年次を除く）。
- ・博士課程の入学試験において英語試験の免除を希望する者は、英語外部試験のスコアシートを提出させる。

④ 取組の実施予定時期

- ・2021年度入学者から実施する予定。

2. 学生の国際性を涵養できた実例

実例 1

学生Aは、本学入学と同時に新渡戸カレッジに入学し、1年次に留学支援英語、国際交流科目等により実践的な英語を学び、多文化交流科目の学修により、様々な国からの留学生と積極的に交流し、異文化理解力を深めた。2年次には英語による複数の授業を学修、4年次には交換留学プログラムを活用した短期留学（韓国：全北大学校）に参加した。6年次には歯学教育・臨床実習体験短期研修プログラムに参加して、スウェーデン王国ウメオ大学歯学部に2週間留学し、それまでに培った語学力等に磨きかけたことはもちろんのこと、海外の歯学教育、研究、および歯科臨床の現状を学び、国際的な感覚に優れた学生に成長し、優れた成績で本学部を卒業するとともに、新渡戸カレッジにおいても所定の要件を満たし修了した。

実例 2

学生Bは、AO入試により本学部に入学、2年次に歯学部に移行後、歯学部専門科目として開講している歯学英语Ⅰ、歯学英语Ⅱにおいて優秀な成績を修め、英語の基礎力、プレゼンテーション能力及び歯学に関する英語力を修得した。5年次及び6年次には、研究テーマを決め指導教員から研究指導を受けながら実験・調査を行う歯学部専門科目「研究実習Ⅰ」及び「研究実習Ⅱ」において、その研究成果を英文で作成した。そして、全国歯科大学・歯学部の学生が研究成果、英語でのプレゼンテーション能力を競う「日本歯科医師会/デンツプライシロナ スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム日本代表選抜大会」に参加し、優勝、カナダのバンクーバーで実施の国際歯科研究学会米国部会学術大会において日本代表として各国の代表とともにプレゼンテーションを行った。